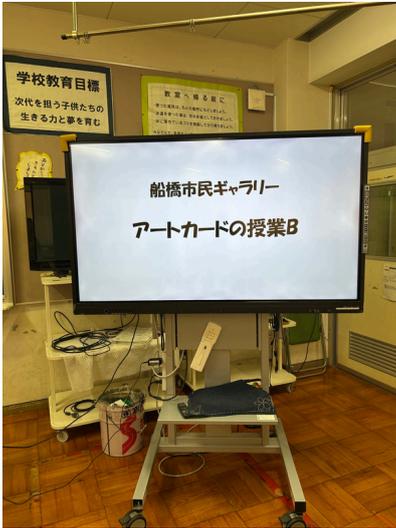


対話型アート鑑賞教室

船橋市市民ギャラリー様が主催している、市内の小学5年生向けの出前授業である対話型鑑賞教室を取材しました。



『対話型鑑賞』とは

作品についての情報や考えを専門家や先生が一方的に伝えるのではなく、観ているみんなの思いを大切に、グループでの対話を通して作品を味わっていく鑑賞方法です。

この鑑賞授業で大切なのは『作品を知る』ことではなく『作品を観る（観察する）』ことだと事前にお話がありました。

『共通点を探せ！』

カードのなかの「色」や「かたち」という造形的な要素に注目して2枚のカードの共通点を探し、グループの中で発表します。

緊張からか最初は苦戦している子もいましたが、ファシリテーター（みんなの意見や思いを受け止め整理する進行役のこと）の皆様のサポートもあり楽しく意見を出していました。

大人が思い付かないような意見も多く、子供達の柔軟な発想には驚かされました。



『つながる、物語づくり』

グループで協力し、アートカードを使った物語を作ります。1人目が「はじめ」の物語、2人目が「なか」の物語、3人目が「終わり」の物語を作ります。

同じカードを見ていても全く違う物語が始まり「こういう物語はどうか？」「素敵な物語だね」と、元気いっぱいに意見交換をしていました。

最後に各グループの中で一番良かった物語の発表があり、心温まる物や思わず笑ってしまう物まで幅広く発表していました。



「ふなばしアートカード」は学級の活動で使えるように、お譲りいただけるそうです。

授業を行ってくれた船橋市市民ギャラリーの皆様、そして担任の先生方、ありがとうございました！